

楊柳観音
重要文化財

楊柳観音は、楊柳、すなわちヤナギからその名が由来しており、しばしば柳の枝を持った姿で描写される。この像もまたカヤ材から彫り出されており、8世紀の作である。十一面観音の優しい表情と異なり、この観音像は決然とした表情をしており、眉をしかめ、歯をむき出しにしている。これは、この観音が病気から人々を守る力があるという信仰を反映している。楊柳観音には癒しの仏陀を意味する薬王菩薩という別名がある。

この像はしっかりとした体つきだが、優雅で流れるような衣を身にまとっている。ウエストの上のところに帯を締めているのは、仏像彫刻としては珍しい表現である。また、肩にはおがくずと漆でつくられた髪の手が垂れ下がっている。